

平成二九年度 九州歯科大学歯学部 大学院入学式

歯学科第六九回、口腔保健学科第八回、大学院第五二回 第四回入学式

式辞

本日、希望に満ちあふれる新入生の皆さんを九州歯科大学に迎えることができ、この上もない喜びを感じております。歯学部歯学科、口腔保健学科および大学院歯学研究科に入学した皆さんに対して、九州歯科大学の教職員を代表して、ようこそ九州歯科大学へという歓迎の言葉を贈ります。

また、これまでの成長を見守ってこられた保護者の皆さまもさぞかしお喜びのことと存じます。教職員を代表して、入学生諸君が社会に貢献する歯科医療人となる道のりをしっかりと支えることをお約束します。

本日の入学式には、小川洋福岡県知事をはじめ、かくも多数のご来賓のご臨席を賜り、厚く御礼申し上げます。

九州歯科大学は、我が国にある二九の歯科部を有する大学の中で、唯一の公立大学として、百三年という長い歴史と伝統、ならびに輝かしい実績を持って、歯学教育および歯科医療の発展に大きく貢献してまいりました。九州歯科大学は、平成十八年に公立大学法人として歩み始め、昨年度、大学改革支援・学位授与機構の機関別大学認証評価を受審しました。受審期間中の平成二七年度に九州歯科大学憲章を制定し、次世代を担う歯科医療人の育成に向けて、これまでの三つの基本理念に加え、六つの教育研究目標を掲げ、大幅な教育改編を推進してきました。その結果、達成状況が極めて良好であるという評価を含め、全ての項目で高い認証評価を得ることができました。本日、入学した両学科の学生諸君に対し、このような環境のもとで教育を受け、高い志をもった歯科医療人として社会に巣立つことができるよう教職員一丸となって取り組むことをここであらためて約束します。

さて、現在、九州歯科大学は、時代の流れに即した継続的な教育改編を進め、専門的医療人、すなわちプロフェッションの養成を重要視した教育を行っています。とくに平成二七年度に設置した歯科医学教育センターを中心に、第二次歯学教育改編を推進しています。

二一世紀に入り、医療系大学において、世界的なレベルでアウトカム基盤型教育が重要視されているなかで、九州歯科大学は、このような教育改編の潮流を歯学教育にいち早く取り込み、歯科医療人としてのプロフェッショナルリズムの涵養を掲げ、患者優先の考え方に立って歯科医療が行える人材の育成を重要視した教育を展開しています。現在進めている教育改編では、高い倫理観に裏打ちされたヒューマニズムの精神、さらには、自己の利益よりも他者の利益を優先するという利他主義を兼ね備えた歯科医療人養成を第一義に考え、継続的に優秀な人材を社会に輩出してまいります。

このような話しをしたうえで、本日、入学した新入生の皆さんにお願いします。諸君は、本学のアドミッションポリシーを十分に理解し、将来歯科医療人として社会に貢献するという強い意志と高い志を持って、本学に入学したと信じています。これから先、九州歯科大学における大学生活において、自らを律した大学生活を送り、本当の意味でのプロフェッションとして社会に貢献するという強い意志を持ち続け、主体的に自分の日々の勉強に励んでいただきたいと思っています。常に、夢と希望を失うことなく、社会に貢献する歯科医療人となることを願っています。

次に、大学院に入学する学生諸君に申し上げます。どのような学問領域であっても、それを支えているのは研究です。今後、歯学研究科における大学院生として、修士課程および博士課程で研究生活を送ることになりますが、歯科医学に貢献する研究者として、生命科学における高度の研究能力ならびにその礎となるオーラルバイオサイエンスに関する豊かな学識を養ってください。その際、自らに課題を課し、その問題解決に自主的に取り組むことを強く望みます。そして、大学院修了時には、口腔保健を通じて国民の健康増進活動に貢献し、これから求められる地域包括医療において優秀な臨床医として、あるいはそれを支える研究者として活躍することを強く願っています。

平成二八年度、北九州市内の十大学が連携して、地域に密着した教育活動を展開するということを目的にした文部科学省 COC プラスプロジェクトが採択されました。そこで、九州歯科大学は、一つのプロジェクト「北九州地区 CCRC による高齢者 QOL ビジネス創出」を担当し、五年間の事業プランのなかで、北九州ひいては福岡県内で、高齢者の生活の質の向上を目指す CCRC 事業を展開します。ここで言う CCRC とは、continuing care retirement community の略

称で、その意味するところは、アクティブシニアの生活の向上を目指し、健康長寿を実現するために継続的な事業を展開することであり、そのためには、多職種が連携して活躍する土壌の醸成が求められます。さらに、この CCRC 事業に関連して、本学が福岡県に提案した平成二八年度福岡県重点施策が採択され、この事業の一環として、地域包括医療を視野に入れて、昨年、本学内に口腔保健・健康長寿推進センター (Dental Center for medically compromised patients; 通称 DEMCOP) を開所しました。このセンターを基軸に、北九州市歯科医師会、門司歯科医師会、小倉歯科医師会、戸畑歯科医師会、若松歯科医師会、八幡歯科医師会と連携協定を結び、地域住民に貢献する活動を開始しました。さらに、製鉄記念八幡病院、北九州医療センター、ふらて会西野病院との間で連携協定を結び、そのもとで学部学生の臨床実習を開始します。このように、地域に根差した医科歯科連携教育を展開して、社会が求める新たな人材を育成します。二一世紀の歯科医学を背負う学生諸君には、先駆け的な教育を展開する本学で歯学教育を受け、歯科医療界のフロントランナーとして活躍することを切に願っています。

現在、ミャンマーの二つの歯科大学、台湾の二つの大学、タイの二つの大学、その他フィンランドのヘルシンキ大学、カナダのブリティッシュコロンビア大学等、あわせて十大学の歯学部と教育連携協定を結び、学生と教員の連携を深める海外連携活動を行っています。この活動も年を重ねるごとに充実し、夏季休暇中に、多くの学部学生がタイのシーナカリンウイロート大学歯学部や高雄医科大学歯学部で海外研修を行ってきました。その一方で、タイおよび台湾から歯学部学生が来学し、本学で連携研修を行っています。まさに、双方向型の海外連携活動が安定した形で展開されています。さらに、今年度、タイからの三人目の留学生である Tip さんが、大学院に合格しました。(Tip、welcome to Kyushu Dental university。 I hope you have a lot of meaningful and exciting time during the study at graduate school)。

九州歯科大学が Global and Local Academic Collaboration を掲げ、口腔の総合大学を目指すというプロジェクトがより充実したものになってきました。今年入学した皆さんは、このような良いめぐりあわせを大事にして、英語で友人と語り合うというキャンパス生

活を通じて、グローバルな視野を持った歯科医療人になることを切に願っています。あわせて、九州歯科大学は、社会貢献という視点で、ミャンマーと興味深いプロジェクトを展開しています。

ミャンマー政府の保健・スポーツ省と連携協定を結び、今後、ミャンマー国内において、INGO 活動の一環として口腔保健活動を展開していきます。経済成長に伴う砂糖の消費量の増加により懸念される齲蝕の発症を予防するために、パーソナルプリベンションとソーシャルプリベンションの両面からの予防活動に関する援助を展開していきます。昨年度、九州歯科大学が検診活動やフッ素洗口等で予防検診活動を行い、ミャンマーの保健行政への提言などの実際的な活動を開始しました。さらに、これからは、両国の歯科医療の発展に貢献する人材育成を Public health dentist 育成の観点で、協力していく予定です。

むすびに、二〇世紀の著名な物理学者であるアルベルト・アインシュタイン博士は、「学べば学ぶほど、自分がどれだけ無知であるか思い知らされる。自分の無知に気づけば気づくほど、より一層学びたくなる。The more I learn, the more I realize I don' t know. The more I realize I don' t know, the more I want to learn.」

という言葉を残しています。今日から、大学で学修を開始する
新入生の皆さんに、明日からの大学での学習および研究生活を始める
にあたり、学問に対して真摯に、そして、すべてのことに主体的
に取り組むことを心から念願して、私の式辞といたします。

平成二九年四月四日

九州歯科大学

学長 西原 達次